

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100041		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム つつじの丘 (そよかぜ棟・ひだまり棟)		
所在地	〒820-0301 福岡県嘉麻市牛隈2510番地98 Tel 0948-57-4150		
自己評価作成日	令和07年01月20日	評価結果確定日	令和07年03月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和07年03月04日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では職員が手間暇かけて調理をしています。利用者の方に「美味しい」と行ってもらえるように味付けを工夫したり、食べやすいように大きさを調整しています。また、当施設ではウッドデッキがあり利用者の方が気軽に外出、外の空気を感じられ日光浴もできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

嘉麻市郊外の住宅地の中でデイサービス併設の、定員18名のグループホームである。併設事業所と合同で行事やレクリエーションを行い連携が図られている。新型コロナウイルス移行に伴い、小学校の七夕集会や地域のカレーの会、茶話会に参加し、中学校の職場体験、高校の介護科実習の受け入れを行っている。入居前からの馴染みのかかりつけ医の受診支援を家族と協力して行い、利用者の状況によっては母体医療法人医師による往診も取り入れ、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制を整えている。配達される食材を使って職員手作りの料理を提供し、入浴支援を行い広いウッドテラスで外気浴を楽しむ等、グループホームらしい家庭的で温かな雰囲気大切に、職員のチーム介護で利用者のその人らしい暮らしに寄り添い、利用者や家族から評価も高い、グループホーム「つつじの丘」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)		1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症型共同生活介護ということを踏まえた理念を掲げ、職員の目に留まる場所に提示している。	ホームが目指す理念を事務室のタイムカードの横に掲示し、常に職員の目に触れるようにしている。職員一人ひとりが理念の意義を理解し、地域の人々と交流を図りながら、利用者や家族の思いを大切に、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアカレーに利用者で行っている。	町内会に加入し、小学校の七夕集会や地域のカレーの会、茶話会等に参加を少しずつ初めている。ボランティアや中学生の職場体験、高校生の実習の受け入れも、コロナ収束後には、再開の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、グループホームの事や認知症に対する理解を得る努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により介護に対して声掛けの難しさなどを話し得られた意見や対応を職員に伝え、サービス向上に向けて活かしている。	運営推進会議は、家族、地域住民、民生委員、行政担当職員が参加し、ホーム運営や利用者の状況、事故、行事、今後の予定、人事等について報告し、参加委員から意見や質問、情報などが提案されて話し合い、サービス向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市の担当者と連絡を取り、ホーム運営の相談や事故、空床状況の報告をしている。運営推進会議にも参加させて頂いており、協力関係を構築している。	運営推進会議に行政職員の参加があり、ホームの現状を伝え、情報交換をしながら協力関係を築いている。管理者は、行政窓口にも、ホームの空き状況や事故等の報告を行い、疑問点があればその都度相談する等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会や身体拘束の内部研修を行い、職員全体の身体拘束対しての理解を深めている。現在は身体拘束は行っていない。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、言葉や薬の抑制を含めた拘束が利用者に与える影響について、職員一人ひとりが理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の職員研修は年2回、管理者が資料を準備して伝える形で実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを設備して管理者を中心に虐待が見過ごされないように注意し防止に努めている。また内部研修を用いて虐待について考える機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に対して理解を高めるためにパンフレットを展示している。必要性や活用方法について理解を高める為ホーム内で話し合いをしている。	権利擁護の制度に関する資料やパンフレットを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。また、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を説明し、関係機関と協力しながら、権利擁護の制度が活用できるように支援している。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族に対して契約書や重要事項に理解と納得をして頂けるよう説明を行っている。契約内容に対して疑問がある時は再度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書内に意見、苦情の窓口を記載しており、契約の際も説明を行っている。玄関に意見箱も設置している。	新型コロナウイルス感染症対策の為、面会は制限している。病院受診に同行される家族とは、その時にコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事を聴き取っている。現在は、主に電話でのやり取りの中で意見や要望、苦情を聴き取り、ホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より朝礼や日中職員に声掛けを行い、入居者の状態や職員の意見を聞き運営に反映させている。相談しやすい様に職員とのコミュニケーションを心掛けている。	ユニット毎にカンファレンスを実施し、職員の意見や要望、提案等を話し合っている。決まった事をまずやってみて、定期的に評価しながら改善に繋げている。また、毎日の申し送りを時間をかけてしっかりと行い、職員の意見や提案を聴いている。出された意見や要望は出来る事からホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが、やりがいや向上心を持てるように職場の環境づくりを心掛けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢は重要にしておらず、本人の能力を発揮して生き生きとして勤務出来るかを重視している。	職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、採用後は新人研修や外部の研修を受講し、職員の意欲に繋げている。管理者は職員の特技や能力を把握し、適材適所の役割分担を行い、職員が生き生きと働ける職場環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権の尊重は理念としてあり、職員がいつも目に留まるように提示している。	利用者の人権を尊重した介護のあり方を職員間で話し合い、意識づけを行っている。職員は、常に理念に基づいた介護が出来ているかを確認しながら、利用者がホームの中で、安心して穏やかに暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	内部研修やZoomでの研修を使用し職員の自己研 鑽に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修などに参加して同業者との交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活が快適に出来るよう本人と家族に了 承を得てから、情報収集を行っており、不安点や要 望に応えられる様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	入居される際、施設を見学してもらい不安点や要望 を聞きそれらに応えられる様に努めていき、信頼関 係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、これまで利用したサービス機関から情 報収集し、アセスメントを行うことで本人にあった支 援につながるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が本人の意向や生活習慣を理解し、家族と接 する様に支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	本人を支える為に、家族に協力をお願いしている。 職員も家族との繋がりを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方が面会できるように環境や雰囲気作りを心掛けている。面会の際は制限を行っていないが入室の際はアルコール消毒を行っている。	コロナ禍以前は、地域の食事会や茶話会に出かけて、知り合いに会って会話を楽しむ機会等も大切にしていた。新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、家族や友人、知人の面会を再開している。ホームの中で親しくなった利用者同志の仲の良い関係や職員と利用者との信頼関係の構築に取り組み、新しい馴染みの関係を大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで食事やレクリエーション活動、イベントを行うことで、孤立することなく入居者同士で交流が持てる。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された本人、家族の悩みや相談を聞いたり、アドバイス等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や思いをケアプランに入れ、本人にあった支援を行っている。モニタリングやアセスメント、担当者会議を行いケアプランの内容を検討している。	ホームでの日常会話から、職員は利用者の思いや意向を把握し、情報を共有しながら実現出来るように支援している。自己選択、自己決定が困難な利用者には、生活歴を振り返り、家族に相談しながら、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に了承を得てから入院先や居宅のケアマネージャーと連携して、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、一日の生活状況を観察して現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画とモニタリングを行っており、本人や家族の思いを反映させている。入院や退院、介護保険変更がある場合はその都度介護計画やモニタリングを製作している。	職員やケアマネージャーは、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、ユニット毎のカンファレンスで職員間で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。介護記録用紙の下にケアプランを掲載し、常にケアプランを意識した介護が実践できるように工夫している。利用者の状態変化があればその都度見直している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入して職員内で情報を共有して、介護計画の見直しの際意見交換が出来る。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの相談などに柔軟に対応しており、急な病院受診や買い物など支援出来る。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア活動の「カレーの日」に行き地域との繋がりをもち豊かな暮らしを楽しむことが出来る。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に受診、往診をお願いしてる。家族対応が困難な時や緊急時の際は職員での受診を行っている。	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診は家族が同行出来る所はお願いし、難しい場合はホーム職員で対応している。利用者の状況に応じて協力医療機関医師による往診を活用し、利用者一人ひとりに合わせた安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護の方が来られ、バイタル確認や職員に日頃の状況を聞き情報の共有を行っている。看護職に相談して適切な対応の指示を受ける事が出来る。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師やソーシャルワーカーとの連携を取って現状の情報交換や相談をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設で容体が重度化した場合における対応は説明を行っている。	契約時に、重度化や終末期に向けたホームの方針を利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認し、利用者や家族にとって最善の体制を検討している。医療行為が頻繁に必要な時点で協力医療機関等への入院となることが多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は定期的に行っていないが、救命講習を受けた職員が数名おり緊急時の対応が出来る。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防火避難訓練を行い職員が対応できるようにしている。また消防署にも協力をして頂き、消火訓練を行っている。	非常災害の避難訓練を年2回実施し、1回は消防署の参加を得ている。昼夜想定避難訓練を行い、通報装置や消火器の使い方を確認し、避難場所に利用者全員が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、非常時に備えて、非常食、飲料水の備蓄もしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて職員へ守秘義務の説明をしている。利用者一人ひとりを尊重し声掛けや支援を行っている。	利用者のプライバシーを尊重する介護のあり方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については管理者が常に職員に説明し、周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で自己決定が出来るよう「開かれた質問」を意識し声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援をしていく中で職員側の決まりや都合を優先せず、本人のペースを崩さないように支援する事を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入ってる物や家族が買って来られた物を着てもらい日々を過ごせるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が「美味しい」と思えるように、職員が真心こめて毎日食事を作っている。台拭きや味噌汁をついたりしてお手伝いをされている。	献立に沿って食材が配達されるサービスを利用し、職員が交代で作る料理を利用者に提供している。広いデッキでお好み焼きを食べたり、果を入れたぜんざいを作っておやつで食べてもらったり、食で季節を感じてもらえるように工夫している。盛り付けやテーブル拭き等、利用者の残存機能に合わせて一緒に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリー計算した食事を提供している。水分量は一日1000ccを目安に飲んでもらえるよう心掛けている。食事を食べられない方や水分をとられない方は、本人の好きな食べ物や飲み物を探し提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており入れ歯は洗浄を行っている。自力で出来な方は職員が支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けを行い失禁回数を減るように心掛けている。夜間は希望されてる方にポータブルトイレを居室に設置している。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、職員2人介助でトイレ誘導を行う等、日中は全員トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間は、利用者の希望を聞いてトイレ誘導やポータブルトイレを設置し、利用者が安心出来る支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員便秘による影響は理解しており、入居者が便秘にならないように水分の摂取や食物繊維を食べてもらうように心掛けている。排便困難の時は腹部マッサージを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回の割合で入浴を行っているので、本人の希望に沿った入浴は出来ていない。なので、入浴の時間が楽しめるように入浴剤などを使用してリラックス出来る環境を作っている。	入浴は利用者の希望や体調に配慮しながら、3日に1回の入浴支援に取り組んでいる。入浴時は、全身の状況を観察し、あざ等がないかチェックする機会でもある。菖蒲や柚子湯等、気持ちよく入浴できるように支援している。拒否の方には、毎日声掛けし、気分の良いタイミングで入浴して貰っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活環境に合わせていつでも居室で休めるようにしている。眠れない方が居たら話し合いや暖かい飲み物を提供し安心出来る空間を作るように心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員、薬の目的や副作用を理解している。薬の変更などがある場合は朝礼や申し送り、申し送りノートなどで伝えている。頓服を使用した際は記録ノートに記載し残している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びのある日々を過ごせるように、嗜好品や楽しみ事をケアプランに取り込んで支援している。気分展開に外出レクリエーションも計画している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内を自由に行けるように扉などには鍵を掛けておらず、外に行かれる際は声掛けをし職員が付き添っている。	コロナ状況を判断しながら外出レクリエーションを検討し、広々としたウッドテラスでおやつを食べる等、外気浴を楽しんでいる。花の綺麗な時期には、車で花見に出かけ、季節を感じてもらっている。病院受診も、貴重な外出の機会となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお願いしており、施設内ではお金を持たせていない。必要な物がある時は施設の方で立て替えを行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話がある時は本人に渡しており、家族との繋がりを大切にいただけるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節に合った絵や折り紙を飾り季節を感じてるようにしている。居室には家族が持って来られたものや自分の大切な物を置かれ居心地よく過ごせるようにしている。	玄関周りには季節の花が咲き、広いウッドテラスの奥には桜の木が植えられ、春には花見を楽しめる。室内は、季節毎に飾りつけを行い、楽しい雰囲気のリビングでは、体操やレクリエーションで盛り上がり、利用者の生き生きとした様子が見られる。ホーム内は掃除が行き届き、清潔な環境の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣のホールに行きお話をされたり、ソファでくつろがれたりして日々を過ごしてもらっている。一人で過ごせる居室はいつでも使用出来るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が快適に過ごせるように小まめな掃除や換気を行い、安心出来る空間を作る為に本人の嗜好品や家族からの贈り物など飾っている。	介護用電動ベッドを設置し、入居時に利用者や家族と相談しながら、馴染みの家具や生活必需品、仏壇や位牌、遺影等、利用者にとって大切な品々を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように配慮している。また、温度や湿度、換気、清掃をこまめに行い、清潔で居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており手すりを複数箇所設置し、トイレは個室の別に車椅子用のトイレも用意している。また、お風呂場やトイレには名前を表示している。		